

花見ツアー 2011年3月29日—4月6日

新江英子

旅行エージェントの醍醐味は、手作りの企画、ツアー遂行、添乗にあります。

古都の社寺に咲いた美しい桜の花を無性に見たく、前から日本へ行く時は、桜が満開の季節に行こうと決めていました。長年の夢がやっと叶うと思った矢先の3月11日、未曾有の地震、津波、火災、原発事故の惨事が立て続けに発生しました。オーストラリア政府からも日本への渡航にストップがかかってしまい、東日本は危険、と言うことで成田を経由する便も減少、キャンセルされ、多くの方々が日本行きを断念したり、延期しました。我々のツアー参加者12名のうち半数がキャンセル。残りの6名は、「日本のために我々が貢献できることは、ツアーをキャンセルせず、予定をしてくれているホテルや観光地を訪れる事だ」、とツアーを執行することにしました。あちこち訪ねた宿の人たちから、「こんな時に、遠くからよく来てくれました」と暖かいお持て成しをしてくれたことでその決断は正しかったと、実感しました。

今回のツアーの目玉はもう一つ。韓国に一泊して、ソウル市内を観光すると言うものでした。

ソウル—岡山と言うルートを選んだのは、翌日の便のソウル発が夕方だったからです。ところが、これが出発の2ヶ月前に突然スケジュールチェンジになり、同日乗継が出来るので、無料ホテルを提供しないと航空会社から言われ、慌てました。交渉した結果、震災の大変な時期でもキャンセルせずに日本へ行くと言う我々の熱意が伝わり、やっと無料ホテルを提供してもらいました。前途多難な旅の幕開けのようでしたが、どこへ行っても大変な歓迎を受け、遅滞も怪我もなく、無事に7日間を楽しめたのも、多くの人々の支えがあったからと思います。

お隣の国なのに、案外訪れた人の少ない韓国。市内観光をして、社寺仏閣、生活習慣がなんと日本と類似し



ていることかと、とても近親感をもちました。韓国ドラマの大ヒット、日韓サッカーワールドカップなどで、日本と韓国の距離はうんと縮まったと思います。

日本到着の翌日は、山口県の岩国へ錦帯橋を訪れました。丘にそびえる城から城下を見下ろすと、300年以上の歴史を持つ錦帯橋が見えました。



戦国時代は、大名の権力の象徴であるお城がたくさん建設されたのに、戦いとともにより多くが落城していったのは残念です。翌日訪れた百年以上前の面影を今にとどめる倉

敷市。中心地から歩いて10分の街の一角は、大原美術館を中心として、19世紀のゆっくりとした時間が流れる明治初期の生活の営みを味わうことの出来る歴史の街でした。

観光客なら絶対訪れる我が故郷京都への思いは複雑ですが、正直きれいな街です。桜はまだかいな？4月1日より春を告げる風物詩「都おどり」が開催され、祇園界隈は舞妓、芸者姿で華やぎます。地方出身の舞妓さんが多くなりましたが、京ことばを習得するのは並大抵のことではないようです。普通の人には、舞妓はんみたいな言葉はつかいまへん。桜、竹林と有名な嵐山。京都へ来たなら必ずここへ来てくれやす。ほんまに綺麗どすえ。。。

最近オージーの間にも、隠れたブームになっている木曾路。熊野古道や四国巡礼のような霊山をめぐる道ではないのですが、江戸と京とつなぐ道として、多くの旅人、籠、馬が行きかかった道です。

馬籠から大妻籠、妻籠と7キロあまりの道は、今はハイキングコースとして、気軽に歩ける遊歩道となっています。我々はメルボルン遊歩で鍛え上げたので、2時間あまりで歩いてしまいました。

旅籠は昔の面影をとどめ、今も民宿とし多くの観光客の宿泊地となっています。

大きな囲炉裏を囲んで、地酒をいただき、宿主の話聞くのはとても興味深く、日本文化遺産の継承に大変感謝をしました。箱根と東京をやめて、高山に2泊したので、雪の世界遺産白川郷も訪問できて、ツアーのみなさんは大満足でした。高速道路ができて、観光地の白川郷にもスポットがあたり、高山から日帰りツアー、ランチ込みでも6500円と気軽に行ける観光コースです。



日本はまだ見所いっぱいです。前もってある程度のプランを決め、フレキシブルに対応していくと楽です。旅にはハプニングがつき物です。それも旅の予期せぬ体験とポジティブに考えれば、未知の地を訪れる旅に夢が広がります。



来年は紅葉の旅を計画中です。震災で落ち込んだ観光産業を復興させるには、観光客を招致していくことが大切です。旅先での出会い、景色に堪能し、美味しい物を食べる。元気なうちに、出来ることを大切にしたいと思います。

来年は紅葉の旅を計画中です。震災で落ち込んだ観光産業を復興させるには、観光客を招致していくことが大切です。旅先での出会い、景色に堪能し、美味しい物を食べる。元気なうちに、出来ることを大切にしたいと思います。

来年は紅葉の旅を計画中です。震災で落ち込んだ観光産業を復興させるには、観光客を招致していくことが大切です。旅先での出会い、景色に堪能し、美味しい物を食べる。元気なうちに、出来ることを大切にしたいと思います。